

平成29年度津山工業高等専門学校有識者懇話会議事要旨

1 日 時 平成29年10月30日(月) 13時30分～16時30分

2 場 所 津山工業高等専門学校 総合理工学科南館2階 会議室

3 出席者

外部委員

岡山大学大学院自然科学研究科長	富岡憲治
美作大学地域連携推進室長	光井俊之
津山市長	宮地昭範(御欠席)
岡山県美作県民局長	渡邊知美
美作地区中学校長会会長	市村京子
日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター所長	青瀬晋一
津山商工会議所会頭	松田欣也
中島病院理事長	中島壮太
津山高専同窓会会長	末澤俊一

学校関係者

校長	則次俊郎
教務主事(副校長)	藪木登
学生主事(校長補佐)	大田肇
寮務主事(校長補佐)	佐藤紳二
副校長	植月唯夫
専攻科長(校長補佐)	野村健作
地域共同テクノセンター長(校長補佐)	小林敏郎
国際交流委員会委員長	小西大二郎
教養教育推進室長	杉山明
先進科学系長	佐々井祐二
事務部長	田中巖
総務課長	小林洋一
学生課長	余村豊
総務課課長補佐(総務担当)	西尾広治
総務課課長補佐(財務担当)	大角真範
学生課課長補佐	重松宏明
学術・社会連携推進事務室長	甲彰一

4 議事等

- 一 開会
- 二 校長挨拶
- 三 有識者懇話会委員及び津山高専出席者の紹介
- 四 座長選出
- 五 津山工業高等専門学校の現状と課題説明
 - 津山工業高等専門学校の現状と課題（校長）
 - 進化を続ける人材育成のための教育環境の整備（教務主事）
 - 学生の教育環境を支える（学生主事）
 - 寄宿舎 北辰寮について（寮務主事）
 - 専攻科の現状と課題（専攻科長）
 - 地域共同テクノセンターの活動（地域共同テクノセンター長）
 - 津山高専における学生の国際化への取り組み（国際交流委員会委員長）
 - 広報・男女共同参画推進について（広報委員会・男女共同参画推進委員会委員長
(副校長))
- 六 質疑応答・意見交換
- 七 有識者懇話会委員による評価
- 八 座長挨拶
- 九 校長挨拶
- 十 閉会

5 質疑応答・意見交換

- (1) 2年生からの各系への配属は、どのような方法で決定されるのか。人気のある系へ偏ったりはしないか。(末澤委員)**

定期試験ごとに希望する系に関するアンケートをとっており、学生にその都度、自分の立ち位置を確認させ、最終的には保護者の確認のうえ決定しています。

推薦で入学した学生については、出願時に希望した系に優先的に配属しています。

- (2) 岡山県北の地方創生において、人材の流出防止が課題としてあげられる。津山商工会議所では、解決策のひとつとして、岡山大学教育学部との間で入学と就職の地域枠（県北枠）を作ってもらい連携を予定している。津山高専でもこういった連携を検討いただけるか。(松田委員)**

地域枠を制度として設けるのは、現在のところ難しいと思います。卒業生・修了生の

就職の現状として、津山高専技術交流プラザの会員企業に15名程度は就職し、思ったよりは残ってくれていると思います。また、一旦、都会へ出てUターンしてくる者もかなりいるようです。

(3) 中学校3年生人口の減少していくなか、学生確保の方策は検討されているか。また、岡山県はものづくりに力を入れている県として認識されており、工業高校もがんばっているが差別化はどのように考えられているか。(市村委員)

高専に入学してくれる生徒は、高校生の1%程度の人数であり、現在就職の状況もよいこともあり、何とか確保できると考えています。

専門学校の専門職大学への転換や既存の大学もこれまでの教育を見直すことを行っているなか、高専は専攻科を修了すれば学位取得も可能であることもあり、これからの大学のひとつのモデルとなるようなことを一貫してやってきたと思っていますし、その点からいえば、入学定員を確保していけるのではないかと思います。むしろ、入学生の質が下がってきたときが問題であり、そのときには新たな判断が必要となってくるとは思います。

また、工業高校との差別化については、ミッションが異なり、競合の対象とは考えておらず比較はしていません。

(4) 人材を育てるという目標を設定されていると思うが、5年間・7年間でどこまで育てるか、育てられるかという点について、どのように考えられているか。(青瀬委員)

学生に対しては、いろいろな科目を提供していて、各科目ごとに目標を設定していますが、学生はそれをクリアすることで精一杯で、それらが有機的に結びつくのは社会に出てからというのが現状であり、5年間・7年間で完全な人間を育てることはできないと考えています。

そこで、本校では「進化を続ける人材の育成」というキャッチフレーズを掲げて、本校で身につけた知識・スキルを、社会に出てから自分の引き出しの中から取り出だしてどうやって利用するかを考えることができる人間を育てる努力をしているところです。

(5) 将来的にますます文系の能力が必要となってくると思う。文系教育にも力を入れて全体のレベルアップ、また人間力を上げてもらいたい。(中島委員)

入学時点で文系の能力もある程度持った生徒が来てくれていると思います。入学後には、コミュニケーション力やグローバルな視点などを目標に掲げて、文系の能力を養え

るカリキュラムを設定しています。

授業は教科書を網羅的にではなく、トピック的に行う、試験・成績評価は暗記式ではなく記述式で行うなど、高校とはかなり異なる形態で行っており、絶対的な時間数は限界を感じるころはありますが、近年求められている思考力を養うような教育を行ってきたと思っています。

また、例えば、グローバルな人材を育成することを考えた場合、大切なのは「教養」ではないかと思います。単に英語が話せるだけでなく、広い視野を持った教養人をつくるのが、工業系の学校であるからこそ余計に必要ではないかと思います。税の作文や岡山県の作文コンクールで受賞している学生もいるように、学生は能力もあるし興味もあるようですので、機会を与えれば伸びていく可能性を持っていると思っています。

(6) 入学生はほぼ県内からだが、就職は県外へ出て行く学生が多いと思うが何割ぐらいか。県内での就職を増やすためには、地域の人との交流や地域学のような授業などにより、地域に愛着を持つようなことを行ってもらえたらよいかと思う。また、公務員になったり、技術交流プラザ以外の地元企業で働いている方も存じているので、そこのマッチングについても県や商工会議所と考えていただけたらと思う。

(渡邊委員)

Uターンや他の職業ということに関連して、50周年記念事業で「われら津山高専卒業生～世界にはばたく67人のストーリー～」という記念冊子を作成したが、この冊子では多方面で活躍している卒業生の様子が紹介されている。学校のPRに自由に使ってよいことを同窓会の理事会で決定しているので、いろいろな場面では是非使っていただきたい。(末澤委員)

学生の進路については、進学が約35%、就職が約65%で、就職のうち県内への就職が約25%くらいとなっています。

技術交流プラザ以外の地元企業とのマッチングについては、インターンシップが接点になるかと思いますので検討していきたいです。

現在のところは、多数の求人があるので、やはり都市部へ出ていくのはある程度は仕方がないと思っています。ただ、一方では、Uターンする者も多いようです。一旦、大手企業で勉強してきて地元就職することも、これはひとつの形として良いのではないかと考えています。

(7) 技術交流プラザ企業PR会への学生及び企業の反応はどうか。就職に結びついた事例はあるか。

つやまイノベーションセンターの今後の見通しについてはどうか。交付金が無くなったときにはどうされるか。(光井委員)

地元の規模は大きくない情報関係の企業ですが、昨年初めて企業PR会に参加することで、本校学生を初めて採用できたという実績が出た企業も居られます。

毎年、就職していく学生がいる地元企業があるのですが、その理由としては、先輩がいることで会社の中身がよくわかるというのが大きいようです。会社の内容や社風を理解するための場を提供するという点において、インターンシップと併せて、企業PR会も学生・企業両方にとって良い効果をもたらしているのではないかと考えています。

つやまイノベーションセンターについては、来年度も継続して活動するつもりです。交付金が無くなった場合は、コーディネータは雇用できなくなるかもしれませんが、3研究会の活動は続けていける、また続けていくべきと考えています。まずは、産学官のグループをしっかりとつくっていかねばならないと考えています。

(8) 専門を体系的に適用できる、他人の専門を尊重し協力できる、多くの人に専門性を生かした提案ができるといった改組の目標を達成させるために、教育上どのような工夫をされているか。アクティブラーニングについてはどうか。(富岡座長)

分野横断演習などの分野横断的な科目、他の専門分野の授業を受けるカリキュラム設定などを行っています。

アクティブラーニングは全体としてやっていますが、すべてではなく、従来の授業形態もあり、できるだけ学生自身が自分で考えられるようにというのを目標としています。

(9) (中学校の立場から) 近年、生徒は幼くなっている感じもあり、中学校から大学相当の教育機関への進学をイメージするのは難しい。高専の価値を知っている人は高専を選択しているが、初めての人にはとっつきにくい感じはあるのではないか。美作地域には理解されていると思うが、特に県南の生徒にうまく魅力が伝われば志願者も増えてくるのではないか。校長会でPRするのもよいかもしれない。(市村委員)

広報については、新聞広告など様々な方法を検討しているところではありますが、さらに検討していきたいと思います。

6 挨拶

【座長】

本日は、委員の方々の様々な立場からのご意見を頂き、有益な会となったと思います。学校側からも様々な観点から取組みについての説明を頂き、優秀な学生を育てるために努力されていることがよく理解できました。

例えば、論点とはなりませんでしたが、学生寮における上級生から下級生への生活面での指導や寺子屋制度での学習面の指導では、自然と指導力が養われ、人格形成へ結びついているものと感じました。また、国際性の涵養においても、忙しい中、様々な取り組みを行い努力されていることが理解できました。

委員のみなさんからもご意見がありましたが、こういった様々な取り組みの成果などを地域社会へ還元して頂けることが大切であると申し上げたいと思います。特に、優秀な人材が地域に根差していただけたら素晴らしいと思います。

委員のみなさんから建設的なご意見をたくさん頂きましたが、これらを参考に是非頑張ってください。また、私共の方へ要望等があれば伝えて頂きたいと思います。

【校長】

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。はっとさせられるようなご指摘も頂きました。

今後も、ますます地域や社会の要望へ応えていける津山高専になれるよう努力して参ります。引き続き、ご意見やアドバイスなどをお聞かせ頂きましたらありがたいと思っております。